

第 16 回 せいれい看護学会学術集会開催にあたって

せいれい看護学会 理事長 大石ふみ子

今日、看護を取り巻く社会は、今まで我々が経験したことがない状況にあります。およそ 4 年間にわたり、広く生活や社会を翻弄した新型コロナウイルス感染症のパンデミック、気候変動をはじめとした多様な自然災害、世界の経済や平和を脅かす政情不安など、心落ち着かないニュースが聞かれない日はありません。このような状況に対し、世界のいたるところで看護職は活躍しています。遠いところの話のように思えることもありますが、看護職はすべての人々の安全と安心を守ることを役割としており、私たちせいれい看護学会も、一人一人の看護職の力を育み、その発展に寄与することで、多くの課題を抱えた今日の社会に貢献していくことを目指しています。

それぞれの理想と日々の小さな努力の積み重ねを形にする一つの間として、せいれい看護学会学術集会は第 16 回を迎えました。学会会員のみなさま、学術集会にご参加のみなさま、みなさまのご尽力のおかげで学術集会の開催を迎えられることに心より感謝申し上げます。

2025 年度（令和 7 年）学術集会は、中野由美子学術集会会長（聖隷淡路病院総看護部長）が掲げるテーマ、「**地域」「組織」で横断的に活躍する看護の力**」のもとに行われることとなりました。

中野学術集会会長からは、「チーム医療を繋ぐ横断的な活動」についてのご講演をいただきます。さらに、聖隷淡路病院院長である原田秀樹先生からは、「地域密着型多機能病院の総合診療、そして看護師への期待」と銘打った教育講演、さらには地域連携、医療安全チーム・ネットワークを焦点とした 2 つのシンポジウムが企画されています。開催会場からは遠く離れた淡路の地から発信される得難い知、将来の高齢社会を見据えた力強い提言を皆様と共有できることを喜びたいと思います。

第 15 回学術集会から引き続き会場をご提供くださった聖隷浜松病院の皆様、中野学術集会会長のもと協力して学術集会の企画に取り組んでくださった皆様、大会運営のためのバックアップとして学会そのものを支えてくださる事務局の皆様、さらにせいれい看護学会を気にかけて、自分たちの活動の発表の場として活用してくださった皆様にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。

せいれい看護学会は、2024 年度からの取り組みといたしまして、学会ホームページをリニューアルいたしました。ホームページを基盤として、入退会そのほかの事務手続きや、学術集会、学会誌とのアクセス等についてもさらに改善を進めていきます。

昨年度の学術集会より、学術集会の発表演題から優秀演題賞を選考・表彰を開始いたしました。選考プロセスについてより洗練し、継続するほか、皆様の研究活動をサポートするための取り組みも推進していく予定です。

今日までの積み重ねの上にある本学会では、これまでの財産を生かしつつ、現在進行形で変容する時代に対応して修正を行いつつ、活動を継続してまいります。みなさまのご意見、ご協力をお待ちしております。なにとぞせいれい看護学会にお力をお貸しくくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。